

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	富田林市立藤陽中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	6	6	1	20	34
生徒数	242	218	228	3	691	

研究の概要

1. 研究主題

『少人数授業による個に応じた指導法の研究・実践』
--------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生・数学 中学校3年間における学習の基礎基本を形成する学年であるため
1年生・理科 中学1年になって、理科の授業に対する興味関心を持たせるため、また基礎基本の定着を図るため
1年生・英語 中学校で新しく学習する教科として、初めの段階からきめ細やかな指導に、より基礎基本の定着を図るため。
2年生・英語 生徒の理解の状況に差が出やすい学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

【数 学】

平成14年度	<p>テーマ 少人数授業を実施し、基礎基本を定着させる。</p> <p>研究の見通し 少人数授業の導入により、基礎基本の力、特に計算力が向上する。</p> <p>研究の内容・方法 ・少人数授業の進め方を研究する。 ・生徒選択制、習熟度別授業を導入する。 ・誤答分析を通して、基礎学力の定着度を分析する。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 基礎基本を理解し、それらを活用する態度を育成する。</p> <p>研究の見通し 習熟度別学習により、基礎基本の定着がすすみ、学習者個々の課題に応じた学力が向上する。</p> <p>研究の内容・方法 ・生徒選択制、習熟度別授業を充実させる。 ・誤答分析の結果を授業に生かす方法を研究する。 ・習熟度別授業の内容を充実させる。</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 基礎基本を定着させ、個々の学力を伸ばす。</p> <p>研究の見通し 習熟度別学習により、基礎基本の定着がすすみ、学習者個々の力に応じた発展的課題に取り組み姿勢が出てくる。</p> <p>研究の内容・方法 ・習熟度別授業を中心とする、効果的な授業の形態を研究する。 ・生徒選択制、習熟度別授業を活用した授業を創造する。</p>
----------------	--

【理 科】

平成 14 年度	<p>テーマ 科学的思考力、問題解決力、発表・表現する力の育成。</p> <p>研究の見通し 習熟度別コース編成で個に応じた学習が深まり、基礎基本の定着がすすむ。</p> <p>研究の内容・方法 実験観察を少人数授業で行うことで、自然の事象、現象について探究する能力や態度をより育成できるように研究する。そのため、授業で学習する実験観察についてのレポートの提出を行う。また、授業の中に生徒の調べ学習（インターネットを含む）を取り入れ、生徒の興味関心を促す。 また、レポートや調べ学習をもとに発表会をもち、科学的な思考や表現力、発表する力を育成していく。</p>
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 科学的思考力、問題解決力、発表・表現する力の育成。</p> <p>研究の見通し インターネットを使うことで、より興味関心が引き出される。</p> <p>研究の内容・方法 前年度に、校内LANが整備され、理科室からもインターネットが利用できるようになったので、前年度の研究内容の中で、インターネットをより多く使うことで、科学的な思考や表現力、発表する力を育成していく。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 科学的思考力、問題解決力、発表・表現する力の育成。</p> <p>研究の見通し 学習者による発表をより日常化させていく中で発表する力を養い、互いに認め合うことで自信を育み、学習意欲を喚起し、確かな学力の向上が図れる。</p> <p>研究の内容・方法 引き続き、前年度の研究内容に加え、その中で特に発表する機会を日常化させていき、科学的な思考や表現力、発表する力をより育成していく。</p>
----------------	---

【英 語】

平成 14 年度	<p>テーマ 生徒個々の基礎学力の向上及び、実践的コミュニケーション能力の育成。</p> <p>研究の見通し 少人数になることにより、発言の機会を増やし、コミュニケーション能力が向上し、きめ細かな指導をすることにより基礎学力が向上する。</p> <p>研究の内容・方法 コミュニケーションの機会を、少人数授業の中でできるだけ多く設定し、1時間の中で、活動する場面を増やす。また、授業の中で、生徒の実態を把握することに努める。</p>
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 生徒個々の基礎学力の向上及び、実践的コミュニケーション能力の育成。</p> <p>研究の見通し 習熟度別クラス編成により、個々の能力の応じた指導をすすめ、基礎学力が向上と応用力の向上がすすむ。</p> <p>研究の内容・方法 習熟度別で行うことにより、どの生徒にもわかる授業をめざし、それぞれの段階に応じてテーマを設定し、きめ細かい授業を実践する。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 生徒個々の基礎学力の向上及び、実践的コミュニケーション能力の育成。</p> <p>研究の見通し 習熟度別クラス編成により、個々の能力の応じた指導をすすめ、基礎学力が向上と応用力の向上がすすむ。</p> <p>研究の内容・方法 習熟度別授業の展開を、より生徒個々の実態にあわせる授業形態を確立していく。習熟度別クラス編成についても、希望にあわせ、年に何度かクラス編成を行うようにしていく。</p>
----------------	--

### (3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数プロジェクト委員会 (メンバー：校長、教頭、数学・理科・英語の各教科の少人数担当者、研修主任、教務主任)</li> <li>・少人数教科委員会 (メンバー：数学・理科・英語の各教科の少人数担当者)</li> </ul>
--

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業を実施することにより、机間巡視や発問回数が増える。そのため、授業時間内に生徒の意見や状況を把握しやすい。</li> <li>・一人一人の生徒に目が行き届きやすくなることで、それぞれのつまづきに気づきやすい。また、生徒の質問にもていねいに答えることができるので、個に応じた支援が行いやすい。</li> <li>・生徒の自発的な、あるいは指名されての発言回数が増えることで、生徒自身が主体的に授業に参加していると感じられる。そして、「わかる」「わかった」という体験を積み重ねることで、学習に対する意欲や関心がさらに引き出される。</li> <li>・習熟度別少人数授業を実施することにより、じっくりと何度も基本を繰り返したり、発展的な問題を取り入れたり、生徒に応じた授業を展開しやすい。</li> <li>・苦手意識をもった生徒の中にも、「ゆっくりでいいから取り組もう」というような前向きな姿勢が見られたり、わからないときに「わからない」と言える環境ができつつある。</li> <li>・各教科において、その特性の中で少人数授業、習熟度別授業の良さを生かせる場面を研究している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>数学科・・・毎時間計算問題を実施し、きめ細かな支援とていねいな説明を続けることで、基礎的な計算力の定着を図っている。</li> <li>理 科・・・とりわけ実験観察のときに、一人一人に目が行き届き、それぞれの質問にていねいに対応できる。</li> <li>英語科・・・ペアワークやグループワークのようなアクティビティの時間や場所がとりやすく、生徒が能動的に活動し、それを発表する機会を多くもつことができる。生徒の発言、発話の機会が増えることの意義は大きい。</li> </ul> </li> <li>・生徒、保護者からのアンケートの結果を見ても、少人数授業を希望する声が多い。特に、今年度各教科で取り組んでいる、生徒本人の希望による習熟度別少人数授業を希望する声は圧倒的に多い。人数が少ないので先生に質問しやすい、先生がよく声をかけてくれる、といった意見が多く、そういったことが学習意欲につながっていると考えられる。</li> </ul>
---

## 2. 今後の課題

- ・習熟度別少人数授業を実施するうえで、コース分けに関する配慮が必要である。子どもたちの中にある学力差に対する意識に対する配慮や、自分にあったコースを選択できるための細かな指導が必要である。
- ・少人数になることにより、発言が広がりにくかったり、多様な意見が出にくかったりすることがある。また、生徒が相互に教え合うといった学習効果が得られにくいことがある。
- ・評価や効果測定の方法に関しては、少人数授業を実施して以来、研修をおこない教科ごとに研究を進めていく必要がある。
- ・授業の内容や教材については、コースにあった計画的、系統的な教材や、自学自習に向けた教材（家庭学習を充実させる教材）を開発する必要がある。
- ・コース間の教師間打ち合わせの時間の確保が必要である。

### 学力把握のための学校としての取組

定期テストや実力テストにおける正答率調査を実施し、学習内容の定着度を確認するとともに、その後の指導について教科会議を持ち改善をすすめている。  
習熟度別コースに分割するため、基本事項の調査及びアンケートを実施。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 南河内地区内での普及について  
校内研究授業の実施・公開
  - ・平成15年 6月19日(木)
  - ・平成15年11月10日(月)研究発表会(学力向上推進協議会)
  - ・平成16年2月18日(水) 授業公開 午後2:00 ~
  - 討議会 午後3:00 ~
2. 南河内地区外での普及について
  - ・研究発表会(2月18日)の案内を、府内の小中学校に配布するとともに、ホームページ上でも案内を作成
  - ・他府県より5校が、視察で来校、お互いの取り組みの交流を行った。
  - 府内6小中学校の研究発表会への視察研究を行い、校内でその報告会をもった。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無